

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 11 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04087

研究課題名(和文) アジアにおける女性の移動にともなう生活世界の再編成に関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical research on Asian women's mobility and the reorganization of the lifeworld

研究代表者

伊地知 紀子 (IJICHI, Noriko)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40332829

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、移動をめぐる点から線、そして面の把握、移動先における生活構造の変化、送り出し側の生活世界の変容、移住政策の実施過程、以上の4点を共通項として調査を進め成果を発表した。成果発表として著書6本、論文3本、学会発表のうち国際学会6本、国内学会2本である。最終年度には、世界社会科学フォーラム(WSSF)2018においてMobility, Diversity, and Human Networks: Asian Women's Life Strategiesというタイトルのパネル(JSPS枠)を設定し全員の報告を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アジア各地において生み出された女性たちの移動と「留まった」側の女性たち双方を含む生活世界の諸相については、これまで十分検討されることなく分析的記述の対象とされなかった。そこで、本研究は、20世紀以降に生じた社会変動に付随して、アジアの女性たちが国境を超える移動、分断、喪失、連帯を経験してきたことに焦点をあて、これらを通して生み出されてきた各地での生活世界の変容と再編の個別性と偏在性を明らかにする。

研究成果の概要(英文)：There were four main goals for this project: a deeper understanding of 1) the connection between points and their relationship to broader areas within the study of mobility; 2) changes in life structure at the destination; 3) transformation of the lifeworld at the origin; and 4) the process of implementing relocation policy. We carried out a joint investigation of migrants living in four villages on the island of Co To in northern Vietnam. Further, we obtained foundational materials on policy and local-level social change following the implementation of Doi Moi that set the stage for migration through additional surveys in migrants' home villages. Our findings contribute greatly to the study of mobility in Vietnam, given the dearth of prior research on this region. In the final year of the project, we reported our findings to date at a panel entitled 'Mobility, Diversity, and Human Networks: Asian Women's Life Strategies' at the WSSF 2018 (by JSPS).

研究分野：生活世界の社会学、文化人類学、朝鮮地域研究

キーワード：アジア 女性 移動 潜在力 共同性 留まる

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

アジア各地において生み出された女性たちの移動と「留まった」側の女性たち双方を含む生活世界の諸相については、これまで十分検討されることなく、それゆえ分析的記述の対象とされなかった。本研究の特色は、これらについて、現代の移動だけではなく前世代の経験も対象とすることによって、19世紀末～20世紀初頭の移動と送り出しをめぐる経験と現代との移動、さらに人びとの世代差を捉えていく。重層的な経験の実相を実証的に検証していくことをとおして、マクロな社会変化への対応を生み出してきた共同性の形成過程とその変容を辿ることが可能となる。

それゆえ、本研究は人口移動の国際比較や女性を分析主体とするジェンダー研究とは一線を画し、移動する女性と彼女らに関わる人びとが、衣食住、生業、儀礼といった生活のさまざまな局面においてマクロな社会変化への対応として紡ぎ出す微細な日常実践をとおして創り出す生活世界に着目するものである。また、本研究はこうした生活世界内部に生じる動態的变化を、20世紀以降のアジアにおける社会変動を踏まえて、複眼的かつ実証的に解明するという点において独創的である。さらに、アジアの人口移動をめぐる研究において、経済的政治的変動のなかで生じる移動を個人の選択に完全に還元せずまた国家にも収斂されない、文化を伝統への回帰でもなくホスト社会への同化の拒否とも異なる観点から、生活世界の実践に着目する本研究は、19世紀末から生じた大規模な人の移動を重層的に研究するうえで新たな視点を提供するものである。さらにこれらの点を通して、現代のアジアの女性に期待される役割と実際の生のあり方をめぐる相互連関にせまることにより、移動にともなう共同性をめぐる諸問題を生活世界の論理から分析するための具体的で有効な視点を提示することを目指すものである。

2. 研究の目的

本研究は、20世紀以降に生じた社会変動に付随して、アジアの女性たちが国境を超える移動、分断、喪失、連帯を経験してきたことに焦点をあて、これらを通して生み出されてきた各地での生活世界の変容と再編の個別性と偏在性を明らかにすることを目的とする。具体的には、移動の時代背景と地域社会の変容、移動ネットワーク、移動先において再編される「つながり」や「自立」への模索のありかた、加えて「留まった」側に生じた変化への対応を丁寧につまえる。これらの様相を、より具体的な生活の諸側面から捉えることにより、アジアにおける女性の移動にともなう共同性をめぐる諸問題を生活世界の論理から分析するための具体的で有効な視点を提示することを目指すものである。

3. 研究の方法

アジアの国際移動に関する文献資料を検討し、分析方法についての共通の視座を共有するために分担者および協力者とともに研究会を開催。各フィールドでの女性の移動にかかる時代背景や地域社会の変容、移動した側と「留まった」側双方について、関係・ネットワークの形成、扶助・紛争をめぐる共同性、衣食住をめぐる共同実践についてインテンシヴ調査を実施する。各フィールドでの知見を持ち寄って検討し、移動にともなう生成する生活世界の潜在的可能性について個別性と偏在性を検証する。調査研究成果について、国内外で発表および公刊する。

4. 研究成果

(1) 学会発表としては、2016年度は、IUAESにて‘Post-liberation migration: Jeju Island women's voyages to Japan and the meaning of “home”’というタイトルで研究代表者が、AAS-in-Asia 2016にて‘Modernity and Women's Ritual Roles in Urban Space: A Case Study of Hungry Ghost Festival in Peninsular Malaysia’というタイトルで研究分担者が本研究課題にかかる報告を行い、これらに対して受けた質疑は本研究課題を進める留意点として意義のあるものとなった。

本研究課題による各自の調査対象地域および共同調査から得られた成果について、世界社会科学フォーラム(WSSF)2018においてMobility, Diversity, and Human Networks: Asian Women's

Life Strategies というタイトルのパネル (JSPS 枠) を設定し、研究代表者および研究分担者がこれまでの研究成果の報告を行った。本パネルではケンブリッジ大の Heonik Kwon 教授もメンバー参加し報告、最終年度にあたる本研究課題の全般にわたる課題と今後の発展可能性について検討することができ、参加者から数多くの質問およびコメントを受けた。これらを踏まえ、最終年度末にまとめの研究会を開催し、各自報告および討論を実施し、今後の展開可能性と課題について確認した。

(2) 本科研期間中、各自のフィールド調査および共同調査を継続するなかで 移動をめぐる点から線、そして面の把握、 移動先における生活構造の変化、 送り出し側の生活世界の変容、 移住政策の実施過程、以上の4点を共通項として調査を進め成果を発表した。

共同調査は、ベトナム北部クアンニン省コト島にてベトナム各地からの移住者について4つの移住村で実施した。さらに、コト島調査データの検討を踏まえ、移住者の母村があるベトナム中部タインホア省にて、移住者の家族のなかで村に留まった人びとに家族史を、元村長に村の移住政策についてインタビュー調査を実施した。これにより、既存のベトナムにおける移動研究において蓄積の薄い海域を通しての移動と背景にある政策およびドイモイ以降の地域社会の変容について基礎資料を得た。移動と政策の関係、陸域と海域における移動の相違、地域社会の変容と移動について、ベトナムでの共同調査から各自のフィールドを捉え直すことにより、調査成果の再検討につながる視点を見出すことができた。

最終年度には、前年度までのベトナムでの共同調査で捉えることができたポイントを広げるために、コト島への移住者の母村のある地域での調査に加え、再度コト島での追加調査をし、移住先で得られた親族ネットワークの維持や変化についてもインタビュー調査を実施した。また、各自のフィールド調査においても上記4点に留意しながら調査を進めた。

(3) 本研究課題のベースとなった、Rethinking Representations of Asian Women: Changes, Continuity, and Everyday Life の書評会を兼ねた研究会を実施し、ゲスト研究者2名を加え、本研究課題全体の展望と関連領域への応用可能性について検討した。

また、奈良大学の芹澤知広先生をゲスト講師とする研究会を開催し、Co To島から退避した中国人たちに関する書籍についての紹介と中国側からみた移動についての報告を受け、中越国境における移動の流動性と社会変動との関係について、中国側から捉える重要性を確認できた。本研究課題の今後の展開可能性について具体的な示唆を得た。

さらに、共同調査の折に、ベトナム社会科学院家族・ジェンダー研究院にて近年の研究動向について研究交流をおこなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

伊地知 紀子、済州4・3を語る、済州4・3から語る、フォーラム現代社会学、17巻、2018、127-135

伊地知 紀子、在日コリアンによる文化継承実践の様相-日本で受け継がれる家醸酒文化をとおして、Studies of Koreans Abroad、在外韓人学会、第42号、2017、45-68 (韓国語)

伊地知 紀子、植民地解放後済州島出身女性の渡日と生活世界、グローバル韓国学と移住・離散の人類学、ソウル大学校人類学科・BK2 1 プラス事業団、2016、51-61 (韓国語)

〔学会発表〕(計8件)

IJICHI Noriko and KATO Atsufumi, "Living on the edge: the life world of the settlers in a borderland island in Vietnam" at the panel "Mobility, Diversity, and Human Networks:

Asian Women ' s Life Strategies ” (JSPS) , World Social Science Forum (WSSF) 2018/9/26 .

SAKURADA Ryoko, “ In Between the Choices and the Decisions: Dynamism of Rural-to-Urban Migration of Chinese Women in Malaysia ” at the panel “ Mobility, Diversity, and Human Networks: Asian Women ' s Life Strategies, ” World Social Science Forum (WSSF), Fukuoka International Congress Center. Japan, 2018/9/26.

加藤 敦典、ベトナムにおける高齢者の居住形態の分析—家族とケアをめぐる社会規範と文化実践の再編成、東南アジア学会第 258 回中部例会、ベトナムの村落地域における高齢者ケアをめぐる制度・規範・文化実践の再編成—文化人類学を中心に、愛知大学名古屋キャンパス、2018/09/29

KATO Atsufumi, Cac thanh phan phuc loi xa hoi o cong dong tai Viet Nam va Nhat Ban(Community care providers in Vietnam and japan) in the International Conference, Strengthening Social Engagement in Elder Care: Policy and Practical Dialogues among Local communities in Vietnam, Japan, and the United Kingdom, Institute for Family and Gender Studies, Hanoi, Vietnam, 2018/05/02.

加藤 敦典、ベトナムからのケア労働者の『輸出』を支える女性たちの選択、ミニ・シンポジウム「高齢者介護が結ぶ日本と東南アジア諸国」(代表者：小池誠)、比較家族史学会 2017 年秋季研究大会、神戸市外国語大学、2017/11/18.

伊地知 紀子, Aspects of cultural practices of Koreans residents in Japan: inheriting Korean household brewing culture,韓国文化人類学会大会, 済州大学校, 韓国、2017/10/20 (韓国語)

SAKURADA Ryoko, Consumption of Nostalgia: How Chinese Singaporeans Understand their Past and Build National History, at the panel “ The Interpretive Turn and Multiple Anthropologies: Seeking the Potential of Cultural Anthropology in the Modern World, ” IUAES 2017, University of Ottawa, Canada, 2017/05/05.

SAKURADA Ryoko, Modernity and Women ' s Ritual Roles in Urban Space: A Case Study of Hungry Ghost Festival in Peninsular Malaysia, at the panel “ Women, Ritual and Religion in Urban Asia, AAS-in-Asia 2016, Doshisha University, Kyoto, Japan, 2016/06/26.

[図書] (計 6 件)

加藤 敦典、『独居』を選ぶ高齢者 ベトナムにおける家の祭壇と女性、速水洋子編『東南アジアにおけるケアの潜在力 生のつながりの実践』、京都大学学術出版会、181-201、2019.

伊地知 紀子・梁 聖宗・金 良淑『済州島を知るための 5 5 章』明石書店、368、2018.

伊地知 紀子、植民地解放後、済州島出身女性の渡日と生活世界、都市と共生、ミヨン出版、346、17-37、2017/5 (韓国語)

櫻田 涼子、セーフティネットとしての故郷-非都市部に生きるマレーシア華人家族の再生産労働と生存戦略、安里和晃（編）『国際移動と親密圏-ケア・結婚・セックス』京都大学学術出版会、312、193-216、2018年1月25日。

櫻田 涼子、越境する「故郷の味」 オーストラリアにおけるマレーシアの飲食文化の展開、阿良田麻里子（編）『文化を食べる、文化を飲む グローカル化する世界の食とビジネス』ドメス出版、320、251-266、2017。

櫻田 涼子・稲澤 努・三浦 哲也（編）、『食をめぐる人類学 飲食実践が紡ぐ社会関係』昭和堂、266、2017。

〔その他〕

伊地知 紀子、書評2本（リプライ1本）、講演4件、映画解説1本、写真展解説1本

加藤 敦典、エッセイ1本、辞典項目1件

櫻田 涼子、辞典項目1件

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：加藤 敦典

ローマ字氏名：KATO Atsufumi

所属研究機関名：京都産業大学

部局名：現代社会学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：60613750

研究分担者氏名：櫻田 涼子

ローマ字氏名：SAKURADA Ryoko

所属研究機関名：育英短期大学

部局名：現代コミュニケーション学科

職名：准教授

研究者番号（8桁）：30586714

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：伊藤 まり子

ローマ字氏名：ITO Mariko

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。